

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会

(第24期・第1回)

日時 平成30年1月31日(水) 15:00～16:40

場所 日本学術会議6階 6-A-(1)会議室

出席者(敬称略) 池田、石川、嘉門、小松、田井、道奥、持田、望月、安福、戸田

オブザーバー : 小池俊雄会員、国土交通省職員3名

議題

冒頭、世話人の小池会員より設置経緯等について説明を受けた後、各委員から簡単な自己紹介が行われた(資料1、資料2)。

1) 委員長、副委員長、幹事などの役員選出

委員からの推薦をうけて望月委員が委員長に選出された。また委員長の指名により、副委員長は道奥委員が、幹事は戸田が務めることとなった。

2) 分科会の設置について

冒頭の小池会員の説明のとおりであるとして、報告が省略された。

3) これまでの2つの分科会の活動報告(資料3-1、資料3-2、参考資料1、参考資料2)

第23期の「国土と環境分科会」の活動内容が、資料3-1に基づき、道奥副委員長から報告された。また第23期の「地球環境の変化に伴う風水害・土砂災害への対応分科会」の活動内容が、資料3-2に基づき、望月委員長から報告された。

4) 佐賀低平地への適応策実装検討小委員会の設置について(資料4)

承認された。

5) 今後の分科会の進め方について

6) 意見交換

5)と6)をあわせた形で意見交換がなされた。主な内容は以下のとおり(発言者の敬称略)。

(1) 海面上昇

(石川) 海面上昇についてはこれまで議論してきているのか？

(池田) 去年の提言では海面上昇についても言及している。

(望月) 2014年の提言でも海面上昇について記載した。

(2) 減災協議会等における社会実装

(池田) 佐賀低平地については、高潮のファクターもとりいれるのか？

(望月) 海面上昇の検討を別途行うなど、現場の負担を軽減する方策を講ずる必要がある。

(小松) SI-CAT の研究によれば、海面上昇を考慮せず、台風のコースと強度を変化させただけでも高潮の危険性が明らかにされている。

(小松) 昨夏の九州北部豪雨災害では、流木、土砂、洪水の重畳災害が発生したのが特徴である。

(安福) 今回の災害は広域的であり、災害対応については、流域圏での対応が必要と感じた。効率化、最適化が求められる一方で、地域の人々の気持ちをどうくみ取るかも重要である。

(持田) 人の住み方、暮らし方、人の動きをどうとらえるかという面では、建築サイドからのインプットが重要となる。

(田井) 今回の災害経験を、今後の復興・復旧にどう活かすかが重要である。

(小松) 前の九州北部豪雨災害の行政による復旧・復興については、当面（比較的短期間）の対応しか考えられていない。一方で、個人のレベルはまちまちである。なお、砂防と河川の連携がすすんだことは収穫である。

(嘉門) 技術を社会実装するには課題をまとめる必要がある。

(小松) 社会実装は外せない。

(小松) 自治体の弱体化が顕著である。その適応策が必要である。

(3) コンパクトシティー

(石川) 地球規模の環境変化の中で最大の問題は「国土利用計画」の問題である。人口減少化、高齢化のなかでのコンパクト化の問題がある。気候変動が都市に与える影響、土地利用計画にどのような影響を与えるか、都市のインフラはどうあるべきかが重要である。

(池田) 建物を移転する際に、支援制度はあるのか？

(嘉門) 立地適正化政策に基づくものはある。個人住宅向けのものはない。

(石川) コンパクトシティーが金科玉条ではない。コンパクトシティーを疑ってかかる検討も重要である。

(4) 山地保全

(嘉門) 「国土と環境」と「災害」とをどう取り扱っていくか。林野庁の施策で伐採に補助金が出ているが、その後、植林はされていない。山地の保全が重要である。

(5) 進め方全般

(戸田) 今回の豪雨災害のように、気候変動の影響で外力が巨大化し、災害は広域化、複合化、複雑化する。国土という大きな視点から気候変動の問題とその影響や適応策をとらえていくことが重要である。

(道奥) 「気候変動と国土」のテーマに対して、国土づくりに必要な課題を包括するような議論とするか、あるいは海面上昇を含めて気候変動に関わるテーマを絞り込み、社

会実装やプロトタイプを想定した具体的な取り組みとするかをさらに議論する。必要に応じて具体テーマに特化した小委員会を立ち上げることもあり得る。

(池田) 分科会の方向性を決める必要がある。

7) その他

意見交換の内容を委員に配布し、検討テーマの絞り込みに向けての提案等を含め、加筆・修正をしていただく。これをもとに、次回の分科会において検討テーマに関し引き続き議論する。

5月21日(月)14:00から学術会議の全体会が開催される。次回の分科会を、その翌日ないしは翌々日に開催する方向で調整する。

(文責・戸田)